9. 教育研究開発委員会

大滝　純司（委員長・東京医科大学医学教育講座）

当委員会の前身である医学教育研究開発小委員会も含め，2006年～2009年の委員と活動を以下に列挙する．

1)　15期（2006年1月～2008年12月）医学教育研究開発小委員会

委員：大西弘高（委員長），志村俊郎（副委員長），石川ひろの，小田康友，杉本なおみ，森本剛，守屋利佳，吉田素文，渡邉淳

(1)　委員会メンバーによる研究プロジェクト

心理学実験のデザインを用いた研究を実施することにより，医学教育の様々な問題点を明確化した．研究の成果を委員会報告「医学教育領域におけるランダム化比較試験の実施上の課題」にまとめ「医学教育」誌に投稿し，掲載された．

(2)　医学教育研究技法ワークショップ

ワークショップを年に1回開催し，上記の研究プロジェクトで得られた研究のノウハウを共有した．

第2回：2006年10月14日・15日（東京大学）
第3回：2007年11月10日・11日（九州大学）
第4回：2008年10月30日・31日（東京大学）

(3)　医学教育研究倫理指針

医学教育研究に関する倫理的問題について検討し，「医学教育倫理指針（案）」を理事会に提出した．

2)　16期（2006年1月～）教育研究開発委員会

委員：大滝純司（委員長），錦織宏，石川ひろの，尾原晴雄，高屋敷明由美，向原圭，伊藤俊之，平山陽示

(1)　医学教育研究メンタリングプログラム

医学教育研究に関心のある当学会の会員（メンティー）が，医学教育研究に精通した他施設の学会員（メンター）と一対一で研究テーマ，研究方法などについての個人的に直接相談する機会を提供する目的で，メンターとメンティーを募集し大会会場などで面談するプロジェクトを開始した．

(2)　医学教育研究ワークショップ

前期に引き続いてワークショップを開催した．

第5回：2010年10月8日・9日（東京大学）

(3)　医学教育研究倫理指針

前期の委員会で提出された「医学教育倫理指針（案）」について理事会からの指示により検討を加え，一部を加筆して理事会に提出した．

10. 大学院教育委員会

井内　康輝（委員長・広島大学大学院医歯薬学総合研究科病理学）

日本医学教育学会では，これまでも日本の医学系大学院のあり方を検討してきた（第39回日本医学教育学会シンポジウム“日本の医学系大学院はこれでいいのか”）．その結果，臨床系大学院は研究者養成大学院とは別に，専門職大学院として設置し，後者は定員を縮小してここへの進学者には大胆な経済的支援を行うなど優遇して，基礎医学を中心とした医学・医療の研究の振興をはかる，ことなどを主張してきた（医学教育 39：317, 2008）．その後，こうした考えをすすめるために，大学院教育委員会を立ち上げ，医学系大学院の存在意義とくに学位取得と専門医制度の整合性，日本の医学研究の現状の把握，とくに欧米における医学研究との比較，などについて議論することを

始めた.

議論の焦点は以下の点にある.

1. 基幹的大学と地方大学の間で医学系大学院の設備等に格差がみられる. 大学院GPなどを利用して大学院相互の連携が図られてはいるが, 成果が上がっているとはいえない.
2. 上記の点を考えると, 現状のように80医学系大学の全てに大学院が併設されるより, 集約化して研究器材や研究資金を集中的に投資すべく, 大学院の再編を図ることが考えられる.
3. 研究者/教育者の道を進む大学院学生に修学中の経済的支援を厚くし, 修了後のポストの提供などを行う必要がある. 大学院学生が真に研究生活に没頭できる環境の整備も必要である.
4. 大学院入学後の教育として, 旧来の小講座の枠をこえた大学院教育のカリキュラムを作り, 研究手法の取得などを幅広く行えるシステムの構築が求められる.

これらを本邦の大学院の実態調査や欧米の研究者養成の調査とあわせて提言していきたい.

11. 情報基盤開発委員会

大西　弘高（委員長・東京大学医学教育国際協力研究センター）

近年, 医学教育の重要性に対する認識が拡がり, 専任の教員数や部署が増え, 専門性も高まってきた. 学会関係者の間では, 専門用語が用いられる機会が増えているが, 逆にこの業界に新規参入する方々, 一般の方々にとっては敷居の高い, あるいは内向きな集まりであると映る可能性がある. また, 医学教育が持続的発展をするためには, 医学教育研究が行われていくべきだが, 自然科学系の研究に慣れ親しんだ先生方においても, 医学教育関連の研究論文を包括的にレビューすることは難しく, これが研究を遠ざける原因にもなっている.

従来, 日本医学教育学会では4年に一度「医学教育白書」を刊行し, 理事を中心としたメンバーが各領域に関する記事をまとめることで, これらの必要性に対応してきた. しかし, アクセスしやすく, 情報のアップデートもより容易になるようなデータベース構築は, 各国の医学教育関連学会が次々と着手し始めている業務の一つであり, 日々発展を続ける医学教育領域においても重要な課題である. 日本医学教育学会は, 2009年度に情報基盤開発委員会の設置を決定した. 医学教育用語や文献情報をはじめとした医学教育に関する諸々の情報をとりまとめ, 医学教育に関心を持つすべての人が活用しやすい情報基盤を提供することを目指している.

まだ活動が始まって1年余りだが,「医学教育白書2010年版」刊行と, ウェブ上の情報基盤である「医学教育情報館（Medical Education Assets Library：MEAL)」構築に向けた作業を急ピッチで進めている. 医学教育白書は7月末の大会において上梓予定, MEALは今年秋頃に一部を公開予定としている. 当委員会の活動が皆さまの一助になれば幸甚である.